

おおらかな合掌が作り出す「ルーフスケープ」

道の駅 ましこ 原田真宏 + 原田麻魚 / MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO

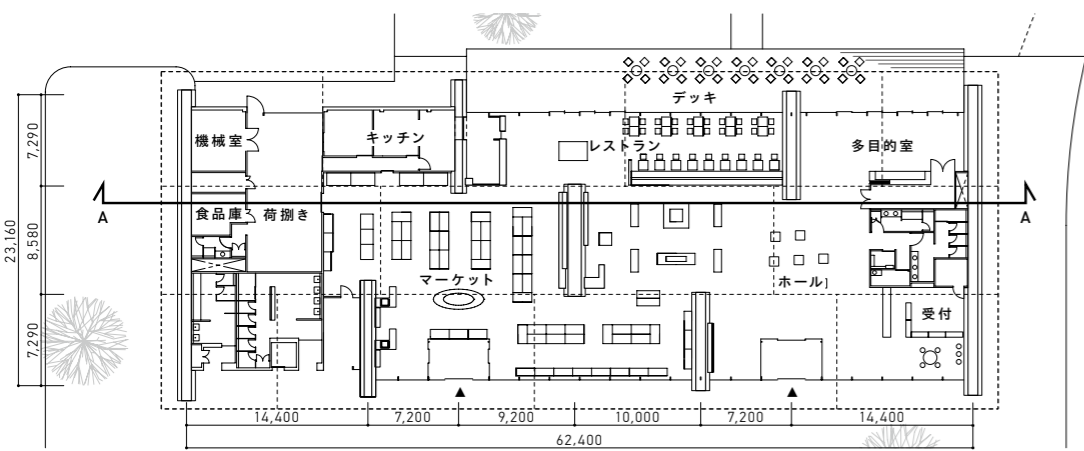
Roadside Station Mashiko by Masahiro HARADA + Mao / MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO



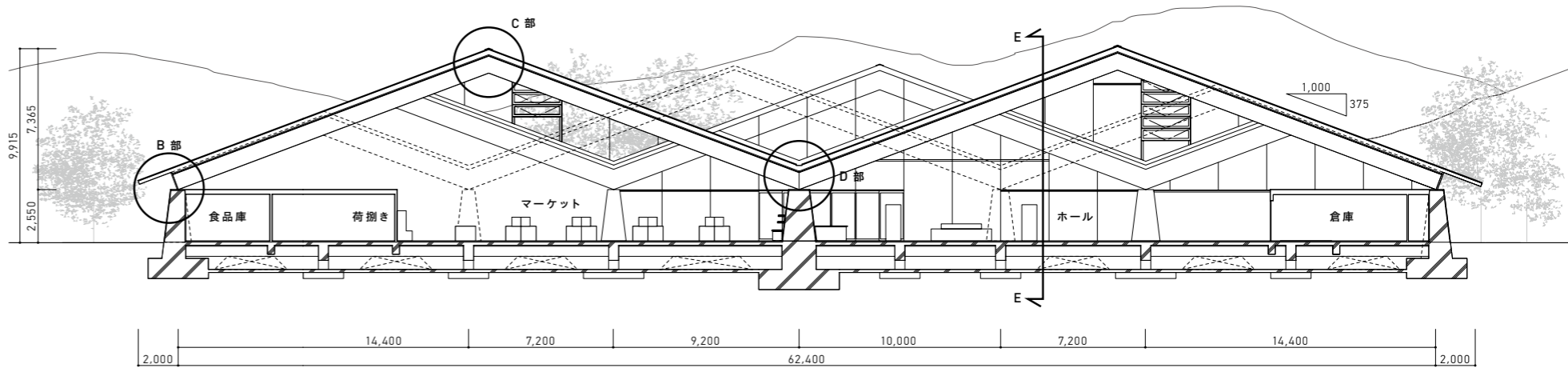
施工：熊谷組首都圏支店

竣工：2016年9月

所在：栃木県芳賀郡益子町



平面 1 / 600



A - A 断面 1 / 300

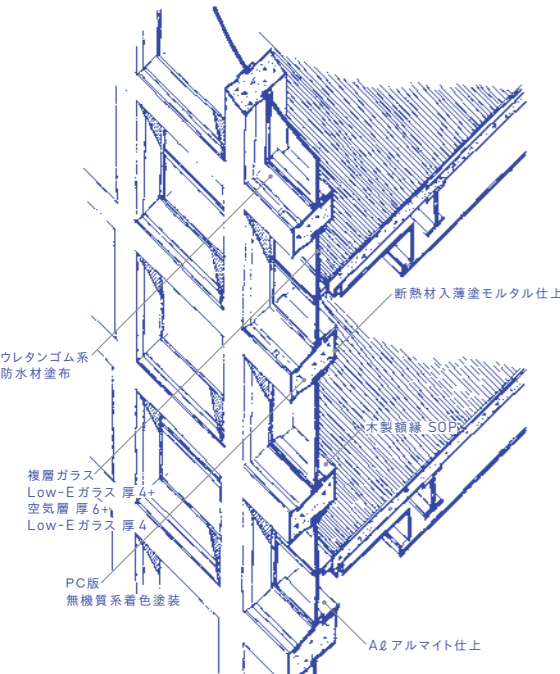
外装の解き方 20手勝負

中藤泰昭 (作図補助: 坪沼一希, 山下唯)
大成建設一級建築士事務所

外装デザインを、ビルディングタイプや技術、もしくは素材や部位といった即物的なカテゴリーではなく、「解き方」でくくってみた。事例は2000年以降を対象とし、震災やサステナビリティに経済といった今日的課題と、それに対する明快なソリューションのあるものをピックアップしている。

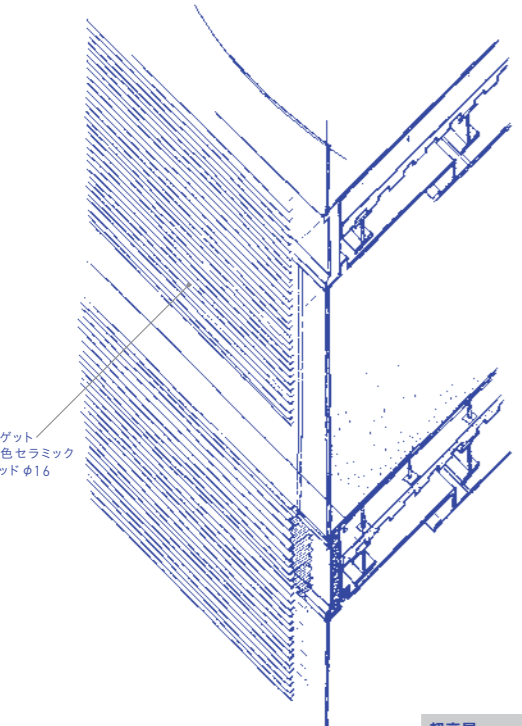
また、解き方を追体験するためにフリーハンドのスケッチを用いている。全く異なる課題や外装に対しても、同じ解き方をしていると感じられる部分があり、逆に同じ課題や外装でも異なる解き方に感じるものもある。表層の写真や図面ではわからない、ディテールが語る鮮やかな20手をスケッチで辿る。

都市のスケールに着目する



1 池袋第一生命ビルディング
——竹中工務店 (2014年, 本誌202号)

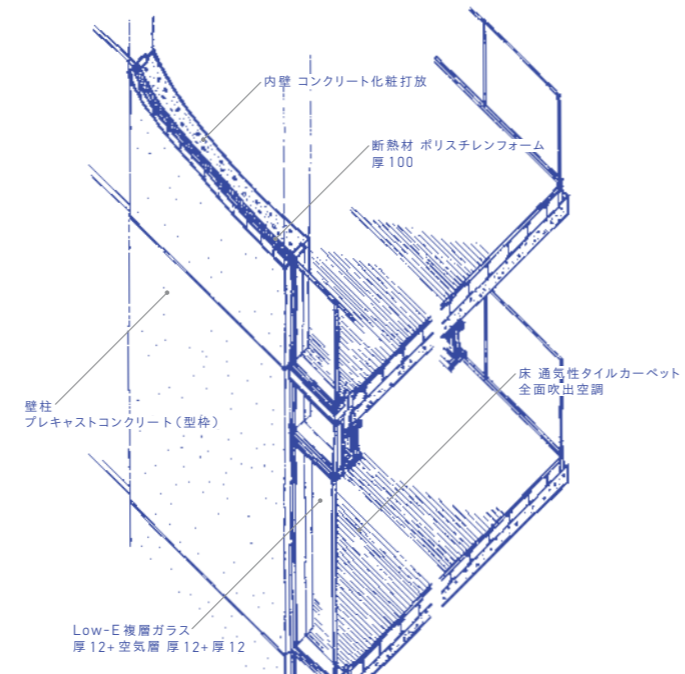
並木道と一体になった風景眺望や日射に反応しながら窓の大きさを変化させている。都市のスケールのグラデーションを白いコンクリートのメッシュの免震構造で実現。



2 The New York Times Building
——レンゾ・ピアノ (2007年, 本誌184号)

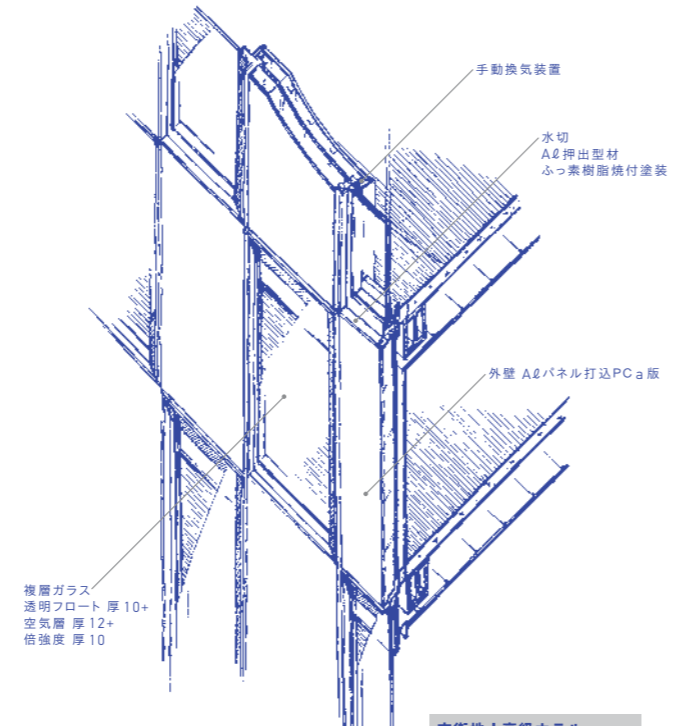
超高層 透明性を確保しながら反射する白色セラミックロッド。熱負荷を30%削減。空の微光を映した生き生きした表情の超高層ビルに。

閉じて環境をつくる



3 大成札幌ビル
——大成建設一級建築士事務所 (2006年, 本誌172号)

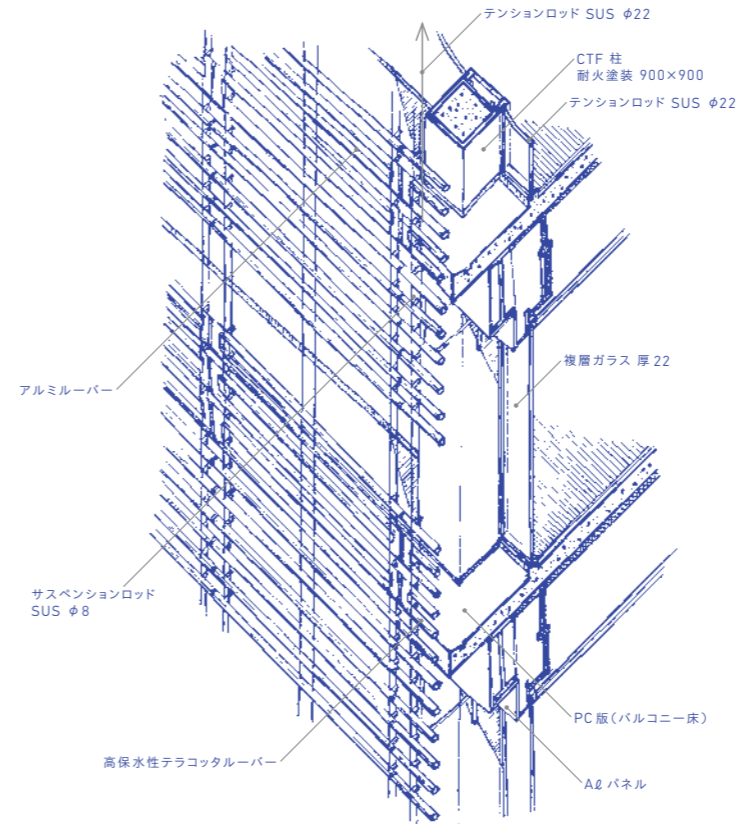
寒冷地+エコ 外周に連立するRC壁をファサードの基本とし、スリット状の開口部は最小限とし外部環境からの熱負荷を低減。内部吹抜けで採光通風を確保。



4 ベルビューオフィス名古屋
——竹中工務店 (2016年, 本誌211号)

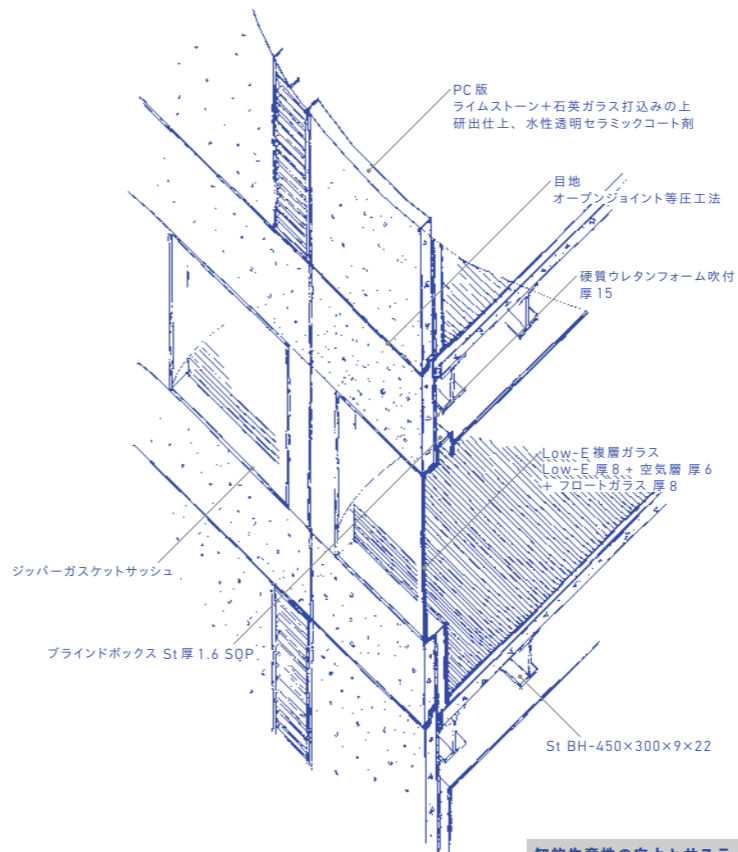
市街地+高級ホテル 一般的に開口率の小さなボツ窓を求められるホテルの客室のファサードを、アルミパネル打込みPC版とガラスで抽象的な市松に変換。

外部と内部の境界を拡張して 機能を持たせる



5 NBF大崎ビル(旧ソニーシティ大崎)
——山梨知彦+羽鳥達也+石原喜人+川島範久 / 日建設計 (2002年, 本誌184号)

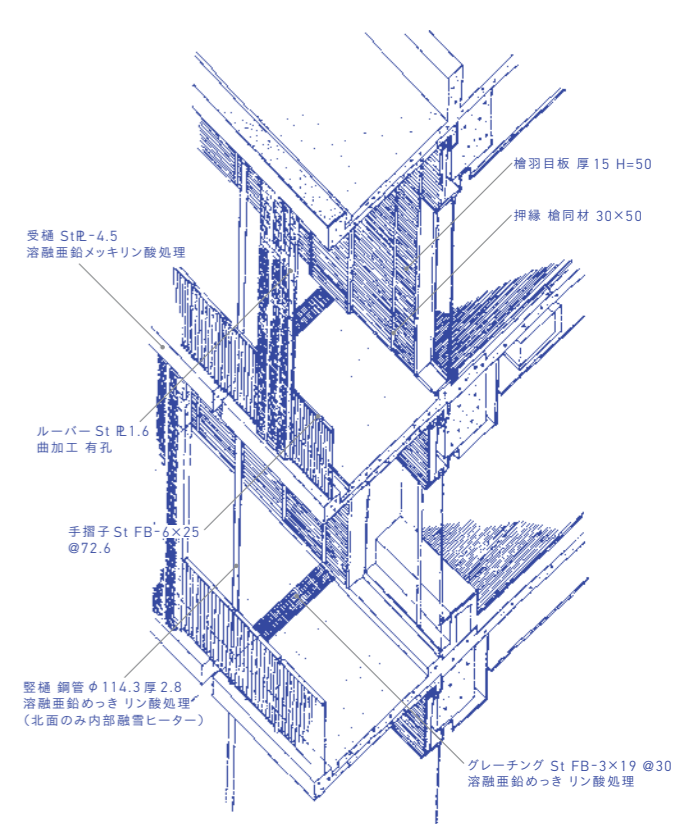
都市と震災 ファサードに避難動線バルコニーを設置。手摺を高保水性テラコッタルーバーとした雨水循環バイオスキンで地表温度を2℃低下。



6 竹中工務店東京本店社屋, 2004年
——竹中工務店 (2004年, 本誌189号)

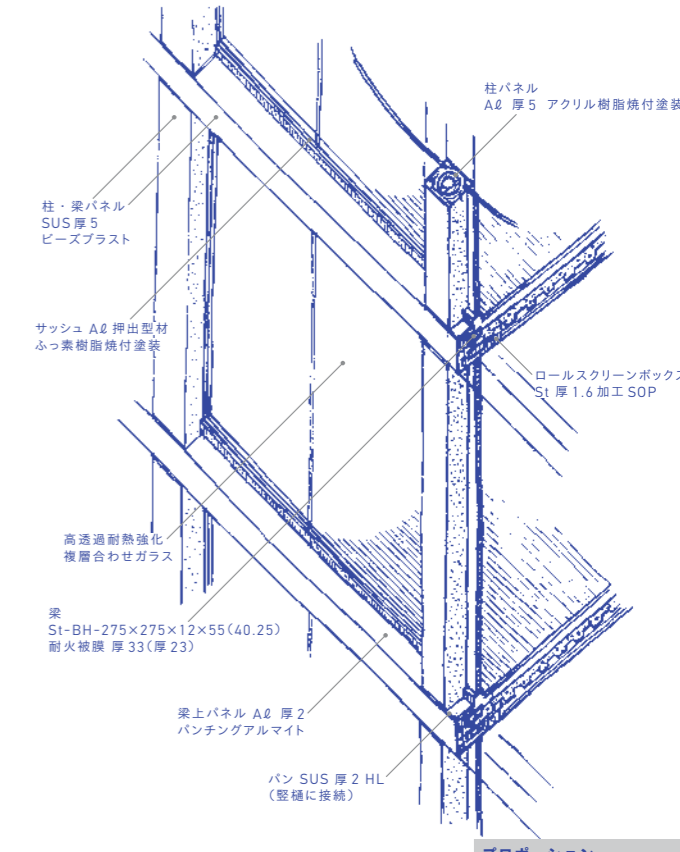
知的生産性の向上とサステナビリティの実現 10.8m x 10.8mの均等スパンの外殻プレース構造とヴォイドからの採光・換気により、ファサードを構造・設備と統合されたシステムに。

奇をてらわない普通の空間を思考した 普通でない創意工夫



7 安曇野市庁舎
——内藤廣建築設計事務所 (2015年, 本誌206号)

防災と地方自治の統合 ファサードにテラスを配置。構造的なスリットを利用して雨水を漏斗で受け、檜の間伐材を横の見切り材で納める繊細なディテール。



8 フォーラムビルディング
——谷川建築設計研究所 (2009年, 本誌189号)

プロポーション スパン3.6m、階高3.6m、410mm角の柱梁によるステンレスの純正グリッドを、内幅・5mmの目地等のディテールの重層によって実現。

PCa版による 大庇の積層表現

新ダイビル

日建設計

Shin-Daibiru Building

by NIKKEN SEKKEI LTD

施工：大林組

PCa版工事：マキテック、高橋カーテンウォール

アルミカーテンウォール工事：YKK AP

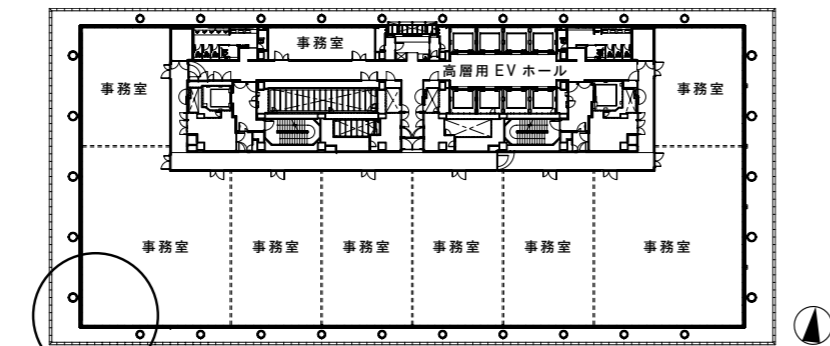
構造：S造、SRC造、RC造

規模：地上31階

竣工：2015年3月

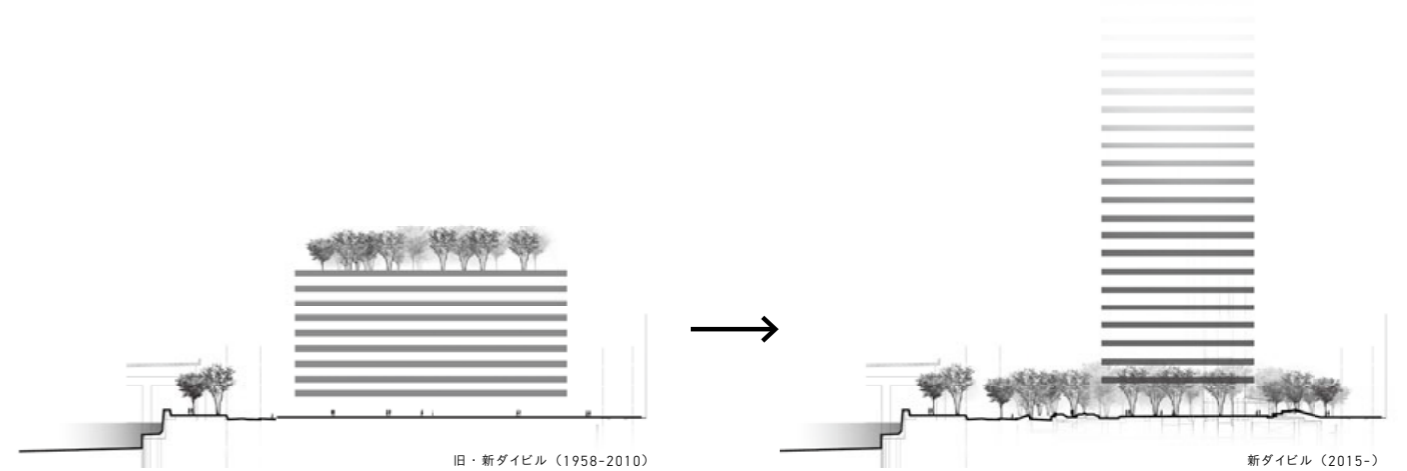
所在：大阪府大阪市

撮影：畑 拓



A部

基準階平面 1 / 800



旧・新ダイビル (1958-2010)

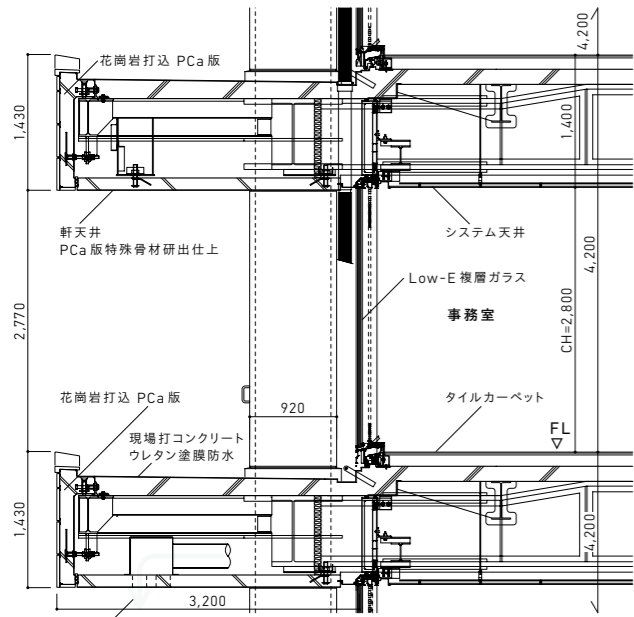
新ダイビル (2015-)

コンセプトダイアグラム

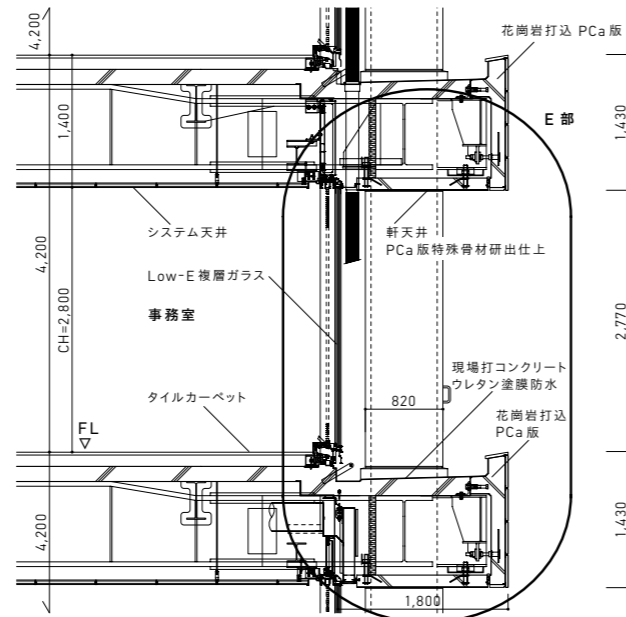


撮影：伸和

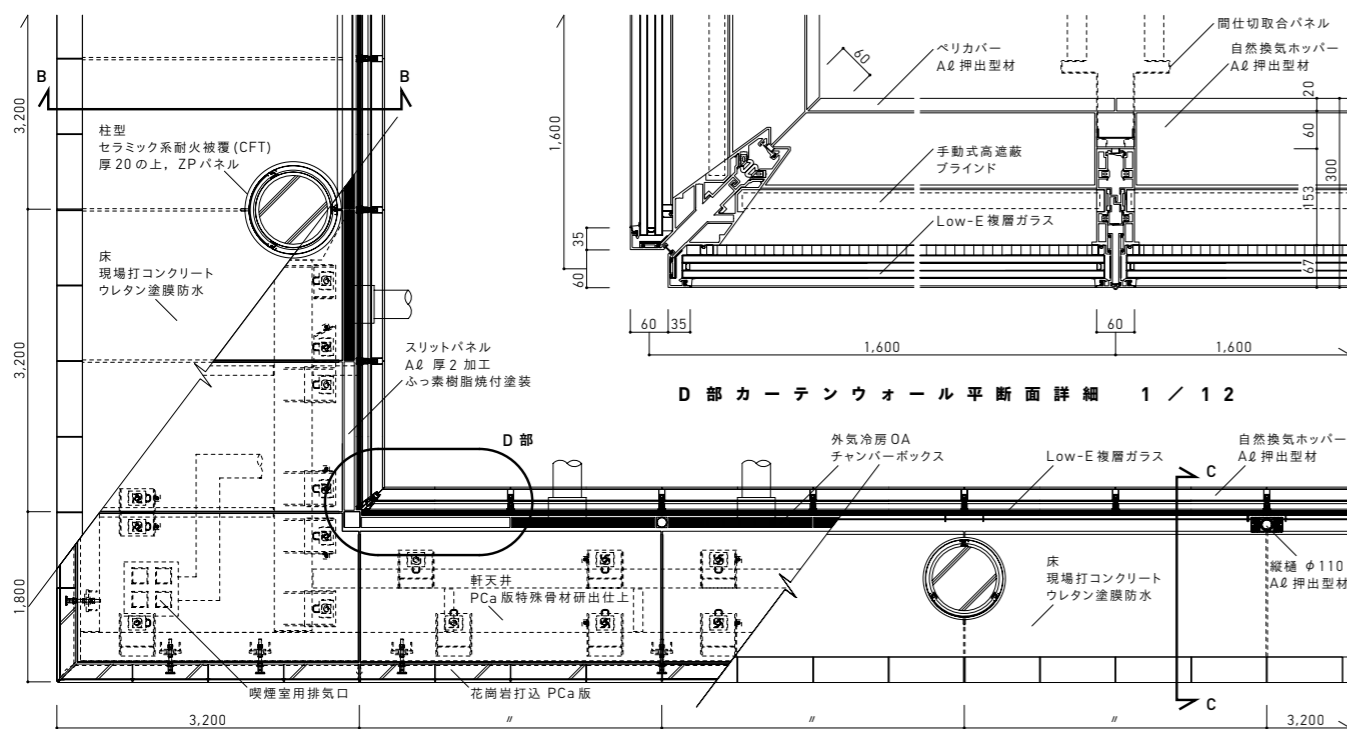
中之島を望む抜群の眺望と、先代ビルの屋上樹苑を継承した大規模緑地を生かすことが設計のテーマであった。アウトフレームとしたフロア外周には太陽高度に応じ東西面に3.2m、南北面に1.8mの大庇を設置。中間期から夏期における日中の直射を遮断し、ブラインドレスの眺望を確保した。庇は天井懐と同じ厚みをもたせ、ビル全体を「積層するスラブ」というシンプルな形式に還元し、遮るものなく「緑と眺望」を楽しむことのできる外装を目指した。一方で中之島や御堂筋に近接した立地であるので、景観との応答も考慮し、庇先端は石打込、軒天は特殊骨材研出PCa版とし、重厚な表情を与えた。サッシュは側面のブラインド用溝を設けることで光漏れ防止を徹底しつつ、間仕切壁設置の際の取り合い部改修を最小化している。大庇は軒天井での各種吸排気やテナント用空調室外機置場など、日射遮蔽・メンテナンス以外にも多目的に活用している。(日建設計 勝山太郎, 山本吉博, 佐賀淳一)



B - B 短計 1 / 80

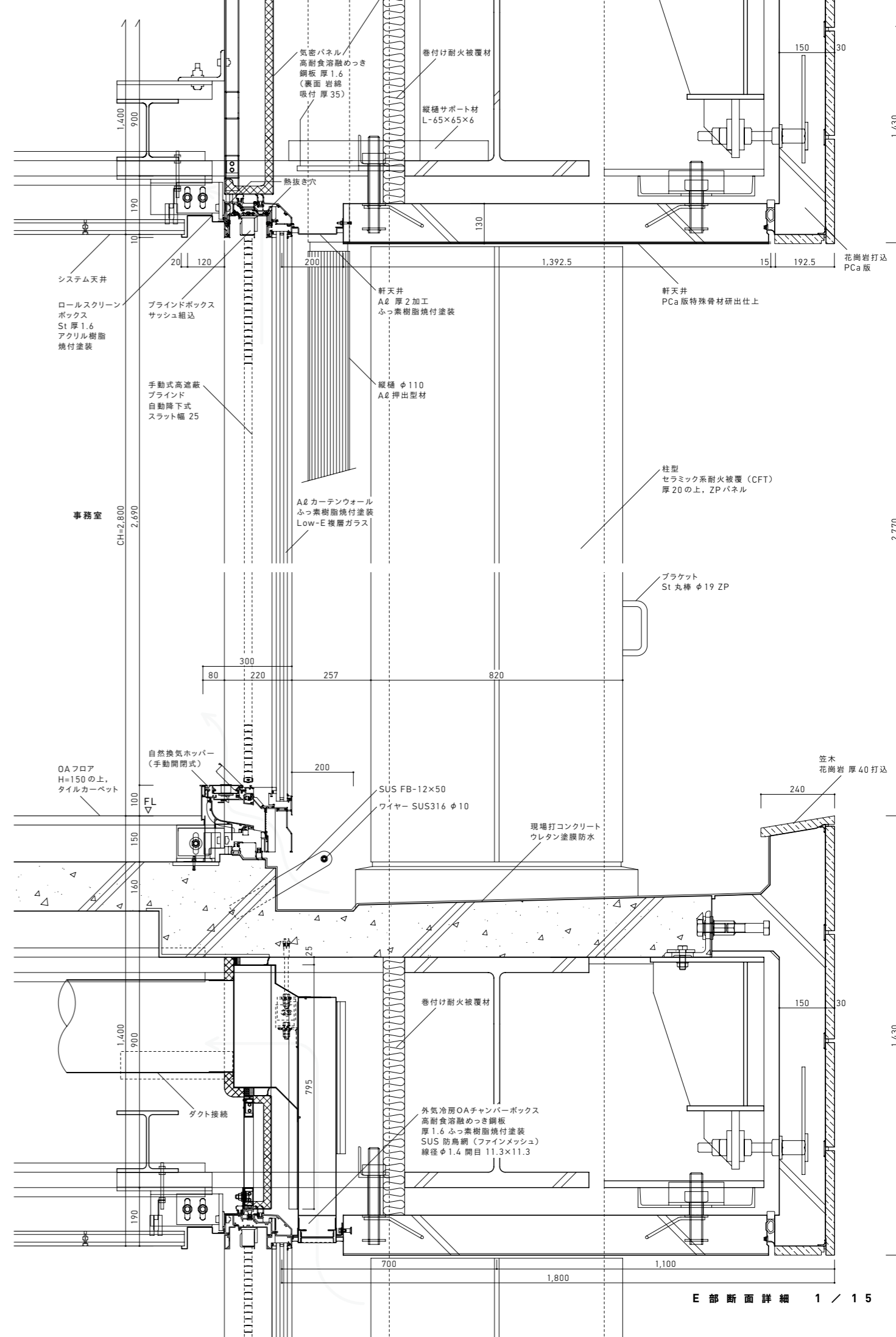


C - C 短計 1 / 80



D 部 カーテンウォール 平衡面詳細 1 / 12

A 部 平面 1 / 80



E 部 断面詳細 1 / 15

#8

重ね着の 和装ファサード

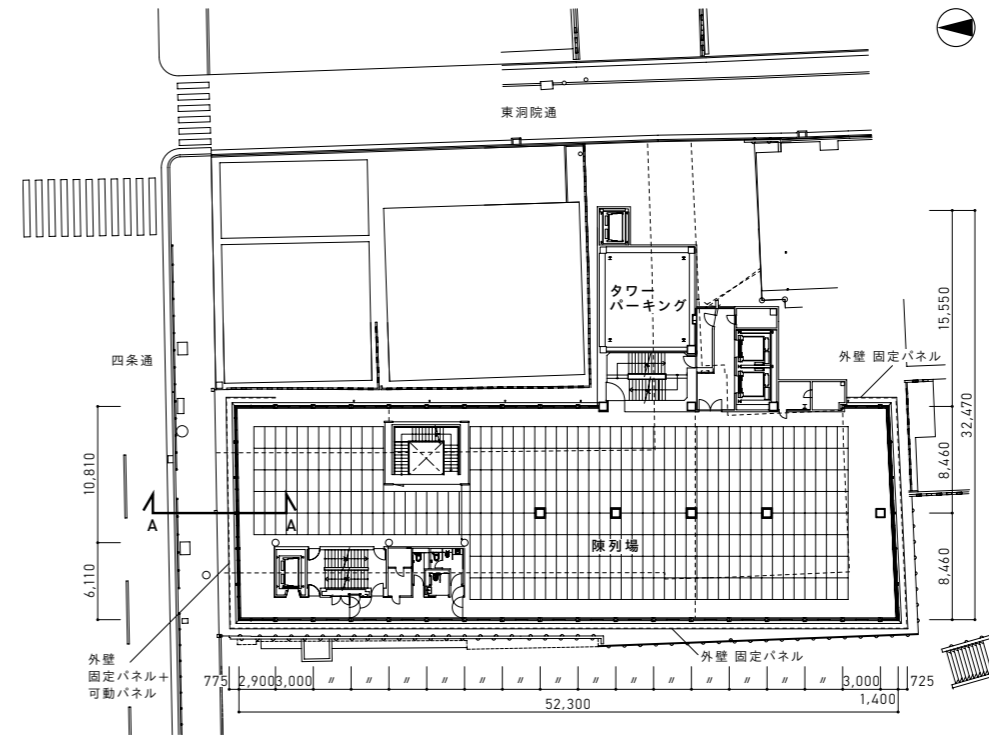
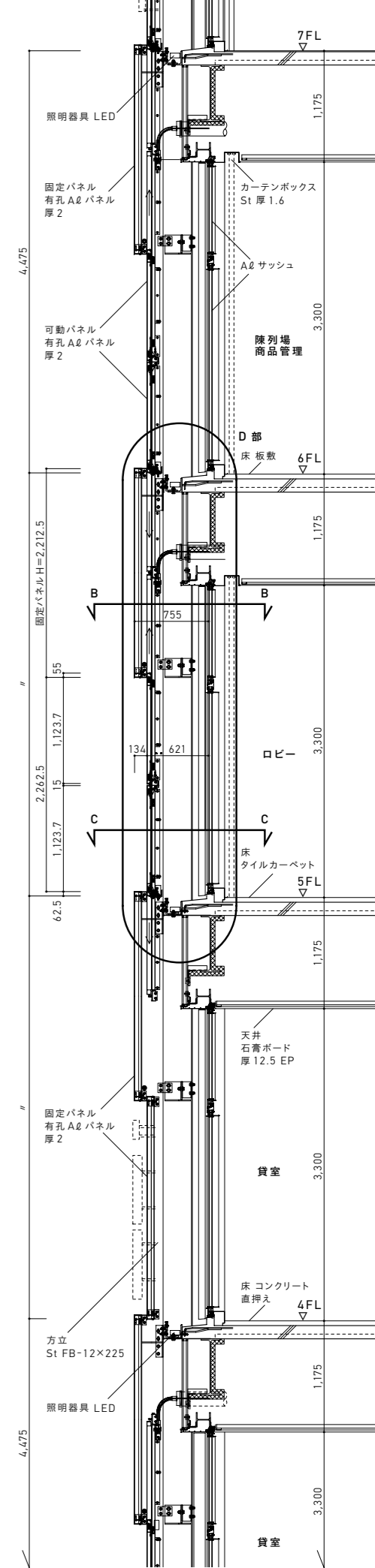
外市秀装苑ビル

竹中工務店

TONOICHI

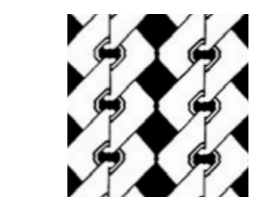
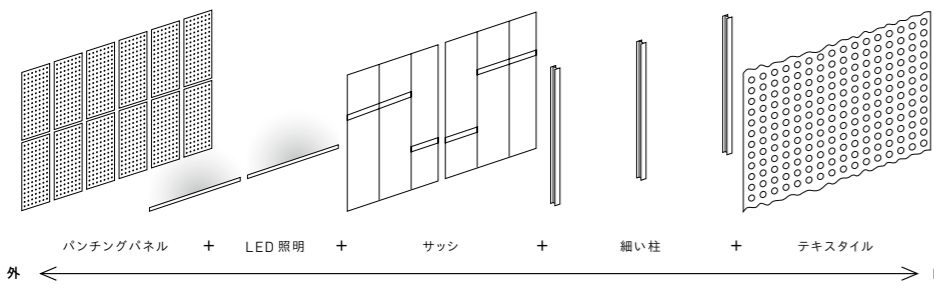
by TAKENAKA CORPORATION

設計施工：竹中工務店
アルミパネル工事：YKK AP
構造：S造
規模：地上7階
竣工：2014年4月
所在：京都市下京区
撮影：畑 拓



配置・6階平面 1 / 600

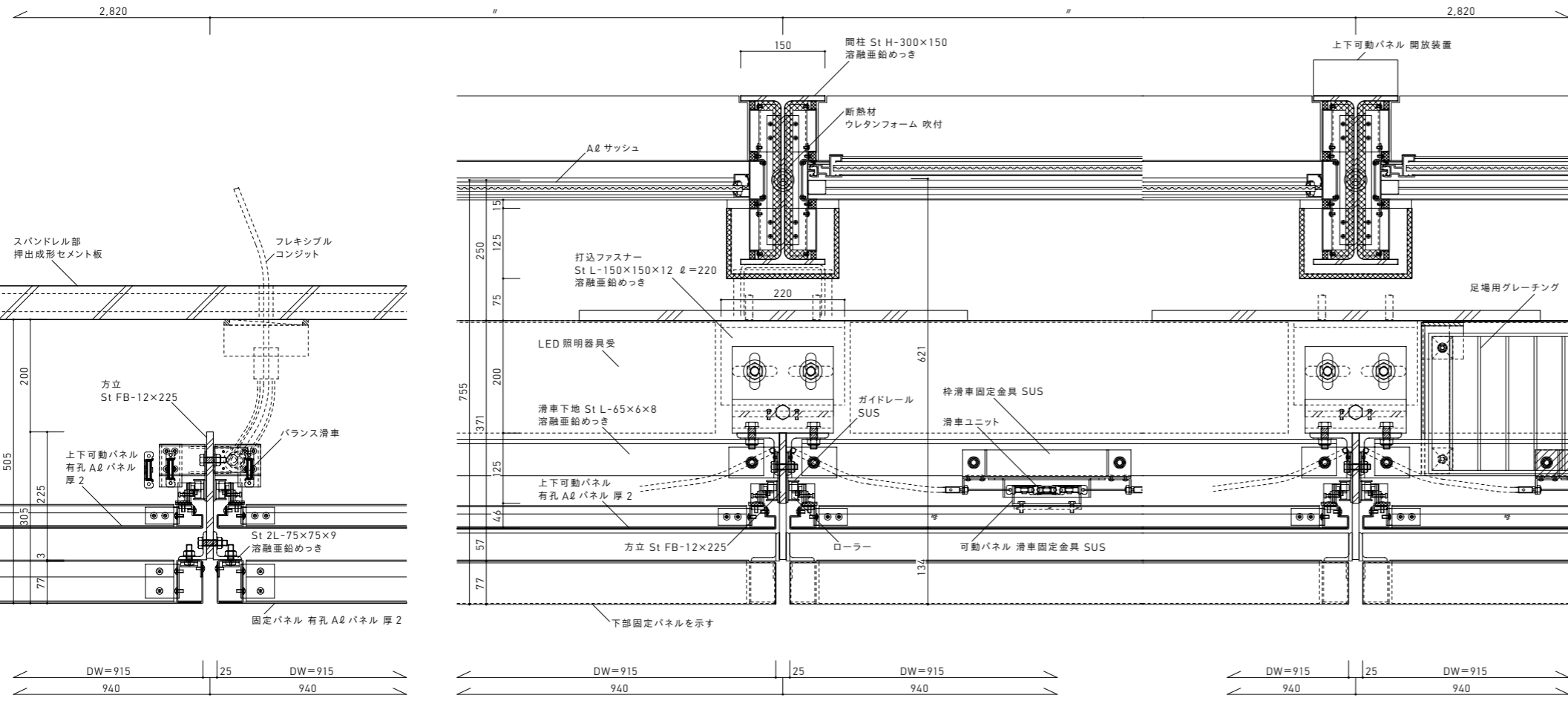
A - A 断面 1 / 60



伝統の「鎖紋様」。古くから着物の柄に用いられている紋様。永続性を意味する



繊細な衣を幾重に纏う



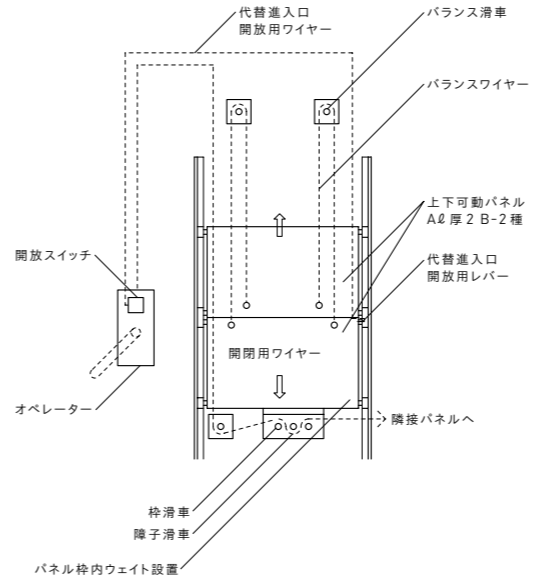
上げ下げ窓上部 B-B 平面詳細 1 / 10

上げ下げ窓下部 C-C 平面詳細 1 / 10

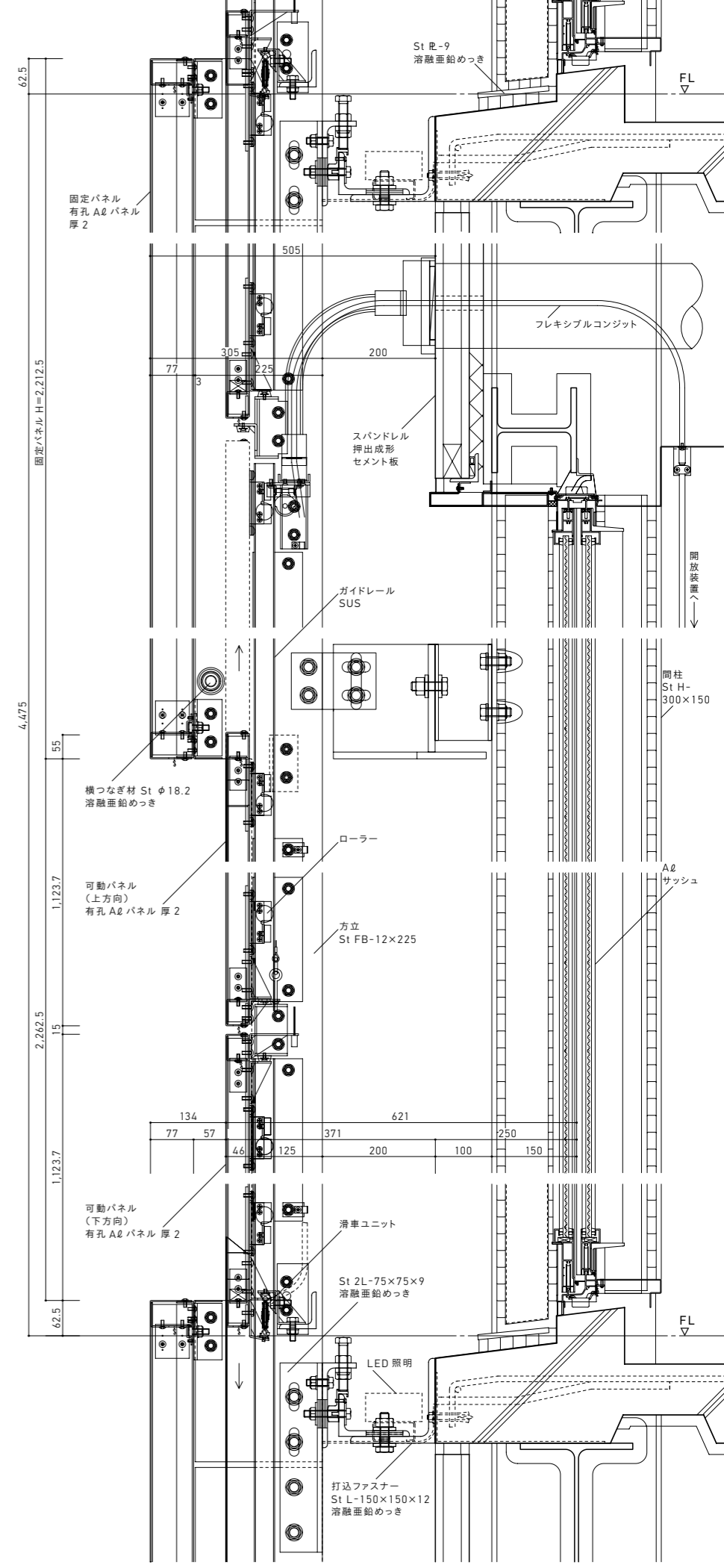
代替進入口部平面詳細 1 / 10



京都四条烏丸で呉服の卸売業を営む会社の本社と物販の複合ビルである。商品のための遮光と織物の本来の色味を確かめるための自然光をバランスするために、永続性を意味する伝統紋様を施し開口率を調整したアルミパンチングパネルを建物全体に纏わせた。紋様は3種類の大きさの異なる孔で表現し、夜には孔から明かりが漏れ、灯籠のような装いを見せる。また、建築主は京都祇園祭で巡行する長刀鉾の保存会会長であり、祇園祭時には建物が目の前に立つ鉾の背景となる。四条通側パネルは排煙オペレーターを利用した機構により手で上下に開閉し、長刀鉾を見下ろす特等席をつくり出す。開閉部は上下にスライドさせることで引き残しなく開放することができる。下方のパネルがウエイトとなり上方のパネルを吊り上げる方式とすることで、シンプルな機構とした。代替進入口も兼ねており、進入口部は外側に付けたレバーを引くことで開放することができる。(竹中工務店 森田昌宏, 興津俊宏)



開閉機構模式図



上げ下げ窓 D 部断面詳細 1 / 10